

平成 20 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	神経系の動作原理を明らかにするためのシステム分子行動学	
領域代表者名	飯野 雄一 （東京大学・大学院理学系研究科・教授）	
研究期間	平成 20 年度～ 24 年度	
<p>【科学研究費補助金審査部会における所見】</p> <p>本研究領域は、実験し易いモデル動物を用いてニューロンの活動と個体の行動との因果的関係を分子、遺伝子レベルで解明することをめざすものである。近年の光学的技術の発展と遺伝子ツールの充実により、単一遺伝子や単一ニューロンを丸ごとの個体においても操作できる道が切りひらかれようとしている現在において、タイムリーなものである。各計画研究は、異なる分野の実績のある研究者が集結しており、モデル動物の有用さがうまく組み合わせられている。さらに、本研究提案は、技術開発を含めよく計画されており、準備状況も十分である。モデル動物における感覚入力から行動出力へと至る基盤原理を実験生物学と理論生物学の研究者間の相互作用により解明することができれば、将来的にマウスやヒトの神経系の理解へと応用できる可能性が期待される。ただし、今後の運営にあたり、研究領域の到達目標をより明確にし、研究者間の有機的連携が十分に図られるように、更なる工夫が必要である。</p>		